

2022年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、極渦はシベリア側とグリーンランド側に分裂した。北大西洋～ヨーロッパ～ユーラシア大陸で波列パターンとなり、500hPa 高度はヨーロッパ北部、ユーラシア大陸の北緯30度帯で正偏差、グリーンランドの南海上、中央アジア付近で負偏差となった。東シベリア付近でも正偏差となった。200hPa 風速をみると、ユーラシア大陸南部～北太平洋西部の広い範囲で、亜熱帯ジェット気流は平年の位置と比べて北寄り flowed。北大西洋～ヨーロッパ付近では、偏西風が分流した。海面気圧をみると、ヨーロッパ付近で明瞭な正偏差、アリューシャン列島付近、グリーンランド付近、ユーラシア大陸東部の広い範囲で負偏差となった。北太平洋と北大西洋の亜熱帯高気圧は、平年と比べて強かった。850hPa 気温をみると、ユーラシア大陸の北緯30度帯～日本の南海上、高緯度帯の広い範囲で高温偏差、ヨーロッパ南部～西シベリアで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、北インド洋熱帯域の東部～北太平洋熱帯域の西部、北太平洋熱帯域の西経135度付近、日付変更線付近の南緯30～20度帯で活発、太平洋赤道域の西部～中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、アフリカ～インドネシア付近を東進した。対流圏上層では、太平洋熱帯域の中部で南北半球対の低気圧性循環偏差、中東～東アジア南部、南インド洋熱帯域で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋熱帯域で南

半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域の西部～中部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、太平洋の中部～東部で正偏差、大西洋～インドネシア付近で負偏差となった。南方振動指数は+1.5だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.26°C(速報値)で、1891年の統計開始以降、3月として5番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.85°C/100年(速報値)である。

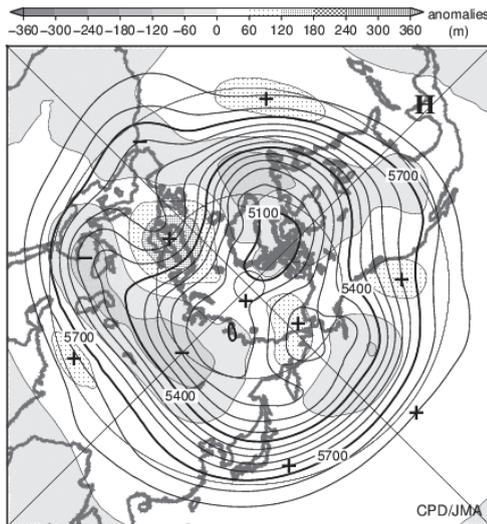
- 主な異常天候発生地域は次のとおり。
- 九州～中国南東部、中国中部～インド北東部、インド西部～中東東部、オーストラリア北部、南極大陸太平洋側で異常高温、トルコ～ヨーロッパ南部で異常低温となった。
 - 中国北西部～中央アジア南部、トルコ東部及びその周辺、地中海東部周辺、ブラジル南西部～アルゼンチン北部で異常多雨、ロシア南西部～ヨーロッパ西部で異常少雨となった。

(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

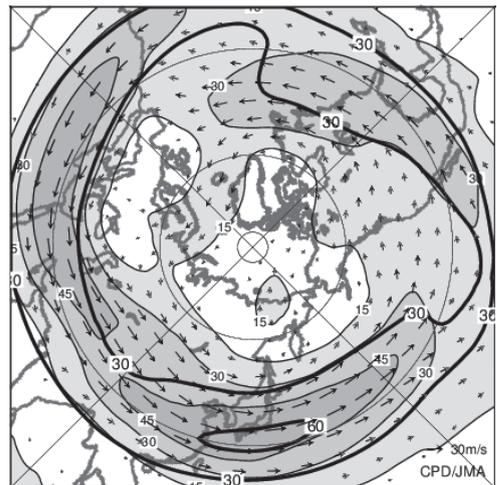
※ 特に断りのない限り、1991～2020年平均値を気候平均値として記述しています。

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

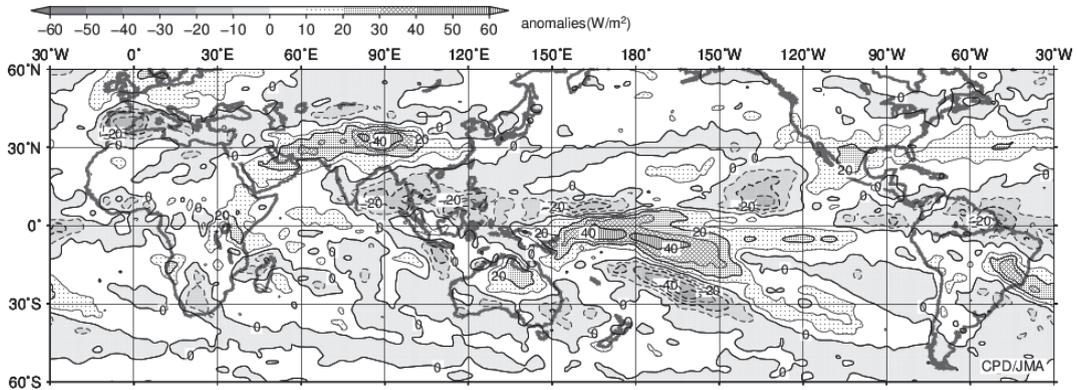
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/diag/sokuho/index.html>



2022年3月の北半球月平均500hPa 高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
 1991～2020年の平均値。

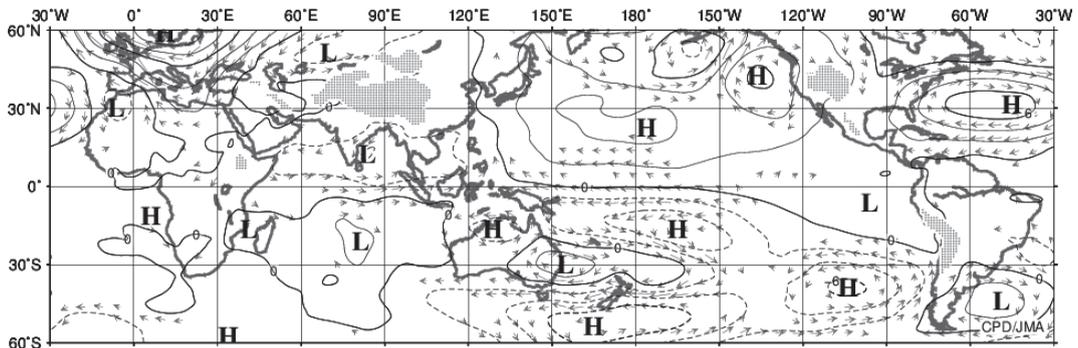


2022年3月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は15m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は30m/s。平年値は1991～2020年の平均値。



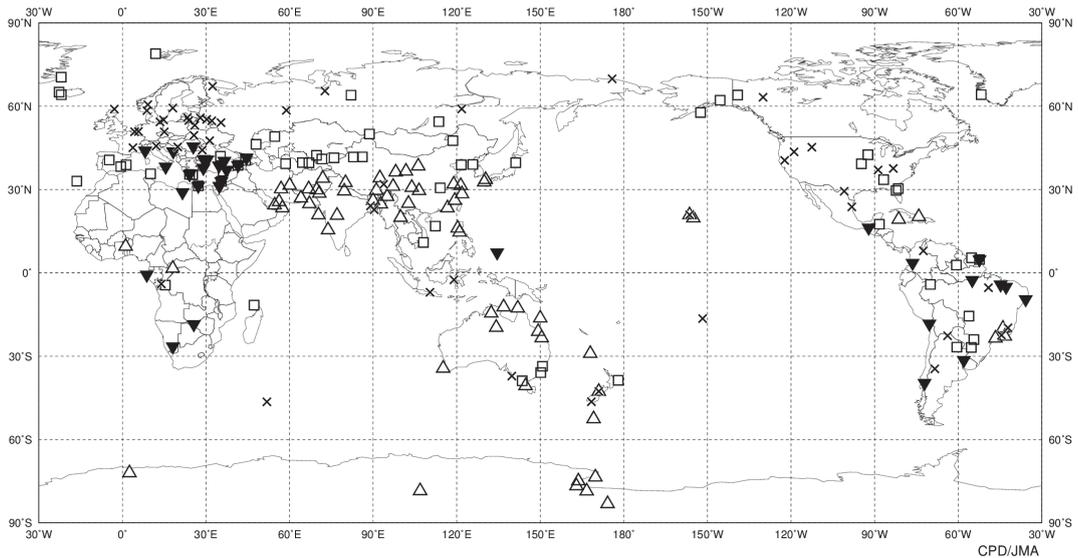
2022年3月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1991～2020年の平均値。



2022年3月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1991～2020年の平均値。



2022年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。